

令和7年度 燕市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和8年2月20日(金) 午前11時00分～正午

2 開催場所 会議室301

3 出席者の氏名

市 長 佐 野 大 輔

教育委員会

教 育 長 小 林 靖 直

教育長職務代理者 中 野 信 男

委 員 齋 藤 純 郎

委 員 小 林 恵 子

委 員 上 田 佳 澄

委 員 渡 邊 愛

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長 岡 部 清 美 教育委員会主幹 長 和 俊

学 校 教 育 課 関 根 幸 子 社会教育課長 石 黒 昭 彦

統 括 指 導 主 事 田 中 辰 弥

5 事務局書記

学校教育課 藤 野 聡 他 2 名

6 傍聴人 なし

7 報告

(1) 燕市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画(案)について

8 意見交換

(1) 市長の教育に関する方針

次第 別紙のとおり(2ページ)

報告、意見交換(概要) 別紙のとおり(3ページ以降)

令和7年度
燕市総合教育会議
＜次 第＞

令和8年2月20日(金)午前11時から
会場：会議室301

1 開 会

2 市長あいさつ

3 報 告

「燕市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）
について」

4 意見交換

（検討テーマ）

「市長の教育に関する方針」

5 閉 会

1. 開会宣言 午前 11 時 00 分

2. 市長挨拶

教育委員の皆様におかれましては、日頃より多大なご協力をいただき感謝申し上げます。今回は「今後の不登校対策の方向性について」意見交換を行い、今回は「燕市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について」を事務局から報告後、「市長の教育に関する方針」について意見交換を行う。忌憚のないご意見を伺いたい。

3. 報告

「燕市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について」

長教育委員会主幹が、「燕市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について」資料説明を行い、その後に意見交換を行った。

○市長

教育委員会内で計画（案）について、議論しているとは思いますが、ご意見いただきたい。

○委員（斎藤純郎）

さきほどの定例教育委員会でも述べたとおり、学校徴収金の徴収管理の公会計化を積極的に取り組んでもらいたい。それから、部活動の地域展開について、来年度から平日の活動についても拡大していくということで、一層力を入れていただきたい。加えて、2 月の市長定例会見にあったように、地方教育アドバイザーから全国の学校教育職員に関する業務量管理の先進事例を挙げてもらい、事務局はその事例について調査し、良い事例を積極的に取り入れ、適切な業務量管理に努めていただきたい。そして、必要に応じて計画は修正し、実効性のある計画にしてほしい。

4. 意見交換

「市長の教育に関する方針」

○市長

それでは次に、「市長の教育に関する方針」について、ご意見いただきたい。

○委員（中野信男）

市長の所信表明で、「子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、世界や地域で活躍できる人材の育成に力を入れてまいります。（省略）すべての子どもたちが安心して未来の夢を描ける環境づくりを進めてまいります。」とある。燕の子どもたちがワールドワイドの未来の夢をかなえる環境づくりについて具体的にお聞かせいただきたい。

○市長

まさに、「Jack&Bettyプロジェクト」は体験談を聞いたり、英語でコミュニケーションをとりながら、スピーチも行うという点で、具現化した事業と考える。また、夢を描くという点では、「Good Job つばめ推進事業」が経営者の話を聞けるため、きっかけづくりとなる。「羽ばたけつばくろ応援事業」をきっかけに海外留学をした生徒もいる。このような事業は継続していきたいと考えている。

○委員（斎藤純郎）

市長の所信表明において、目指すべき方向性として「育てる燕市」を掲げ、「特別支援教育の充実」を挙げており、このことについて教育委員会に求めることはどのようなことか教えてほしい。

○市長

特別支援教育に入る前の段階として、「5歳児健診」を今年度から取り組んでいる。この結果を子育て応援課と教育委員会で共有し、連携することが重要と考えている。

○委員（小林恵子）

市長の所信表明にある「未来を担う子どもたち一人ひとりの個性と可能性を尊重し、それを最大限に伸ばせる市政を実現してまいります。」について、未来を担う子どもたちを育てるには教師の「授業力」「マネジメント力」を高める必要がある。教室には入れるが学習に集中できない子どもが増えているという「現場」での教師の困り感を教育委員会としていかにサポートすべきか市長のご意見を伺いたい。

○市長

これは難しい課題だと思う。教師の研修をしつつ、スクール・サポート・スタッフの活用、通級や特別支援学級との連携も重要である。また、「5歳児健診」での早期発見が、これからの発達段階において効果的だと考える。市独自で人的配置等、即時対応できるという提案は難しく、県への働きかけ程度となる。教育長の考えはいかがか。

○教育長

この課題は全国的な課題と捉えている。一つの自治体でどこまでできるかが大きな問題である。例えば「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法（給特法）」の改正のように、国が施策として対応していく必要があると考える。加えて、教員は県費のため異動もある。

○委員（渡邊愛）

この課題については、私自身の経験で、保育の現場でも同様のことが起きており、小児科医が園児の様子を見に来てもらうことがあった。子どもが本当に困るところまで行きつかないと、動けない部分もあった。

市長の所信表明の中で、「育てる燕市」で掲げている「こどもまんなか応援サポーター」の活動や、

応援サポーター側になるにはどうしたら良いか教えてほしい。また、不登校の子どもたちの支援体制の強化の具体的な対応について教えてほしい。

○市長

「こどもまんなか応援サポーター」はフランクな活動で、ハッシュタグをつけて情報発信をして取り組みを市全体に広げたいと考えている。不登校については、来年度、「燕市不登校対策 COCOLO “T” (燕版 COCOLO プラン)」が動き出し、先進地へ学んだり、地方教育アドバイザーの意見を聞くことも重要であるとする。その子にあった個別対応について、校内教育支援センターと校外教育支援センターが連携して対応していきたい。

○委員（上田佳澄）

市長の所信表明で、文化振興に触れていた部分について、地域の芸能文化を残していくための具体的な案を教えてほしい。地蔵堂おけさについて、かなり前は体育の授業で習っていたが、学校単位で体育の授業等で教えてもらえないか。

○市長

私自身も燕ばやしを子どものころ習っていて、地域の自治会単位で参加していた。まずは、地域の方から広めていくことが大切なのではないかと考えている。実現可能かはわからないが、コミュニティ・スクールで関わっている地域の方から周知してもらおう場が設けられれば良いと思う。

○委員（小林恵子）

文化振興という点において、燕市出身の大学生や成人した方で、市外で活躍している方を地元で紹介できる機会をもてると良いかと思うが、市長の考えを聞かせてほしい。

○市長

市内や県央地域を拠点に音楽活動する方の発表の場としての「つばめ音楽祭」を文化会館で開催している。いただいた意見を参考に、どのような方がいるのか把握していきたい。

○委員（渡邊愛）

もう一つ所信表明で教えてほしい。「豊かな暮らし」とは、心が豊かであると生きやすさや暮らしやすさがでてくると思う。農業の担い手の確保はとても重要で、子どもたちへ向けた農業体験と道筋について聞かせてほしい。

○市長

「つばめキッズファーム事業」等、各学校での取組がある。学校へは地域の農家を知る仕組みづくりを検討したい。農家の担い手はむずかしいと感じている。子どもではないが、農業体験を受け入れる側の農家を支援する取組を始めた。その延長線上で子どもたちへの対応についても今後考えてい

きたい。

○委員（中野信男）

12月定例会の一般質問の市長の答弁において、「教育に関する喫緊の課題のひとつとして（省略）『学ぶ場の環境整備』ととらえております。」とあった。現時点でも整備されてきていると思うが、燕市、市長らしさを打ち出せばもっと良くなると考える。他市から羨望されるような環境整備についてどうお考えか。

○市長

「学ぶ場の環境整備」として、人工芝のサッカー場整備は今まで燕市にはなかった取組である。B&G海洋センターもテント式ではなくなる。また、小中学校の屋外運動場の整備が必要と捉え、来年度予算化した。ソフト面だと、「燕市不登校対策COCOLO“T”（燕版COCOLOプラン）」もしっかり責任をもって取り組んでいきたいと考えている。なお、体育施設や図書館については、建物系保有量適正化計画に則り、検討していきたい。

○委員（中野信男）

「5歳児健診」の取組は他市と比較して、充実していると耳にした。

○市長

「5歳児健診」や「羽ばたけつばくろ応援事業」など子どもたちがやりたいことを応援することも、「学ぶ場の環境整備」の延長線上にあると思うので、引き続きしっかり取り組んでいきたい。

○委員（上田佳澄）

教職員の業務量管理につながることだが、地域コーディネーターの確保ができれば、教員も楽になるのではと考える。人件費を検討いただきたい。

○市長

燕市は人件費について、できる限り予算化をしているが、一人一人の子どもが複雑化、多様化しているため、サポートする側のスタッフのスキルアップも重要かと考える。他市の事例も見ていきたい。また、地方教育アドバイザーを通じて情報等を得ることで、市で対応できることも増えるのでは考えている。

○委員（渡邊愛）

市議から、お声掛けいただき分水のこども食堂に行ってきた。佐藤小児科医もそこにいた。こどもの居場所であるが、地域の方も参加して生き生きしていた。

○市長

こども食堂については、「子どもの居場所づくり支援事業」として予算化している。貧困がないような経済活動も検討する必要があると捉えている。コミュニティとしてのこども食堂の維持を推進していきたい。

本日は、「市長の教育に関する方針」について議論させていただいた。この総合教育会議の設置要綱の第1条のとおり、今後も、市長と教育委員会が、円滑に意思疎通を図り、本市教育の課題、目指す姿等を共有しながら、同じ方向性のもと、連携して効果的に教育行政を推進していきたいと考えている。

5. 閉 会 正午